# 大阪市中教研会報

№141
編集者　大阪市立中学校教育研究会
発行人　大阪市立中学校教育研究会
会長　坂本政隆
発行所　大阪市立中学校教育研究会
大阪市立緑中学校
TEL 06－6911－3688

## 「中学校教育研究会に期待すること」

大阪市立中学校長会
会長　茨木久治

新型コロナウイルス感染症の拡大により、令和２年２月27日に全国の学校に対して、３月２日から春季休業日までの臨時休校が国から要請されて２年以上が過ぎました。今なお、感染症の拡大は予断を許さない日々が続いています。そのような中でも、今年度は各校において感染症予防対策をとり、様々な工夫を重ねて一定の教育活動を進めることができています。

このような状況下において、学校教育は新たな変革期を迎え、各中学校では２年目に入った新学習指導要領の着実な実施に取り組んでいます。個別最適な学び、協働的な学びの一体的充実を図る「令和の日本型学校教育」が進められています。今、教員の姿として①環境の変化を前向きに受け止めて教職生涯を通じて学び続けること、②子ども一人一人の学びを最大限に引き出す役割を果たすこと、③子どもの主体的な学びを支援する伴走者としての能力が求められています。

14年間続いた免許更新制が廃止され、令和４年４月には教育公務員特例法と教育職員免許法が改正されました。令和５年度から教育委員会が個々の教員の研修履歴を記録し、管理職が「指導・助言」する教員研修制度もスタートします。教員が自ら計画して主体的に研修に取り組み、学んでいくことがますます求められます。それだけに、大阪市立中学校教育研究会が進める研究活動は、教員の主体的な学びを支える基盤となることと大いに期待します。３観点による学習評価、とりわけ「主体的に学習に取り組む態度」の評価研究も研究会の活動を通してきっと深まっていくことでしょう。

最後になりましたが、新型コロナウイルスの感染が予断を許さない中、感染症予防に努めて研究を進め、工夫に工夫を重ねて全市研究発表会、全体研修会を開催されました中学校教育研修会の役員並びに各研究部の皆様のご尽力に敬意を表します。さらには、ご指導・ご支援を賜りました大阪市教育委員会、大阪市教育センターの皆様に心より厚く感謝申しあげます。

## 「研究を止めない、学びを止めない、成長を止めない」

大阪市立中学校教育研究会
会長　坂本政隆

学習指導要領が、令和３年度から全面実施され、令和４年には、大阪市教育振興基本計画が策定されました。本研究会の研究テーマを、「よりよい未来の創り手となる資質・能力の育成 ―学びの質を高めるカリキュラム・マネジメントを通して―」として研究活動を行ってまいりました。各研究部、各ブロックにおかれましては、このテーマのもと、研究を進めていただきました。

また、感染症対策を行い、各ブロック研究発表会、全市研究発表会を実施いたしました。各ブロック研究発表会に関しましては、４つの教育ブロックになって初めての実施となりました。初めての実施に向けて尽力いただきました、各ブロック委員長、副委員長の皆様をはじめ関係の皆様には心より敬意を表します。全市研究発表会におきましては、さらに深化した形で、オンライン等を活用した授業や発表を実施していただきましたことにも心より感謝申しあげます。

今年度、本研究会では、会則にもとづき「特別研究部」を設置し、「総合的読解力育成カリキュラム」作業部会の活動に微力ながら協力させていただきました。ご多用にもかかわらず、作業部会に参加し協力いただいた専門員の皆様、部長の皆様、派遣していただきました学校長の皆様には厚くお礼申しあげます。

感染症対策で、本来の研究活動が充分でないところがあります。しかしながら、「研究を止めない、子どもの学びを止めない、子どもの成長を止めない」の思いのもと、大阪市の研究活動の推進に、本研究会は全力でお力添えさせていただきました。今後も本研究会は皆様の研究活動の推進にご支援できますよう尽力してまいる所存です。

最後になりましたが、各研究部長様、各ブロック委員長様をはじめとする専門委員の皆様、そして全会員の皆様方の多大なるご尽力をいただきましたことに深く感謝申しあげます。また、ご指導、ご助言を賜りました大阪市教育委員会、大阪市教育センターの皆様方に厚くお礼申しあげます。

# 部門より研究活動・成果について

## 国語部

### 「生きる力」としての国語力の育成
－自分の思いや考えを深める言語活動の充実－

赤坂寛臣（今市中）

９月の各ブロック研究発表会では、３年ぶりに集合研修を行った。

第１、２ブロック…「国語科における効果的なICTの活用について」の実践事例報告を行った。講話を大阪市教育センター総括指導主事にいただいた。その後、区別協議を実施した。

第３ブロック…研究テーマ「思考力・判断力・表現力をはぐくむ国語科授業の研究」に基づいて、新北島中学校で実践した「メロスの行動に密着し、メロスが勇者にふさわしい人物か見極めよう」の報告をした。

第４ブロック…研究テーマ「主体的・対話的で深い学びの充実」に基づいて、田辺中学校で実践した「学校図書館を活用したブックトーク」の報告をした。指導助言を大阪市教育センター　スクールアドバイザー　宮田　逸子　先生にいただいた。

10月12日の全市研究発表会では、「表現の特徴などに着目して、『故郷』という作品が何を語ろうとしているのかを読みとろう」の単元の全７時間の授業を録画したものを、Microsoft Teamsで各校へ配信し、授業を視聴した後、各校で研究協議を行う形式で実施した。子どもたちが思考の整理のためにICTを活用し、情報の共有や、アウトプットの際に学習のポートフォリオとして参照できるよう工夫されており、新たな指導のモデルとなるような授業を提案できたものではないかと考える。

書写については、中文連書道部門の活動を支援し、「『生きる力』を育む書写教育」を研究主題に取り組みを進めた。夏季休業中に講師の先生をお招きし、生徒向けの講習会（行書や篆刻）の実施を支援した。10月の総合文化祭では、作品を展示するとともに、自尊感情を高める場として書道パフォーマンスの舞台発表を動画で発表した。令和５年２月に開催される生徒作品展に生徒の作品を出品する予定にしている。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

## 社会部

### 持続可能な社会の形成者として、見方・考え方を深める社会科学習

小野寺　健（新豊崎中）

・研究主題に基づき、教科指導・授業実践・授業検討会等を通して研究活動を行った。
　研究にあたっては、龍谷大学法学部 准教授 中本和彦様にご講話、ご指導・ご助言をいただいた。
・全市研究発表会の準備にあたっては、中本准教授に参加いただいて貴重なご助言を頂戴しながら進めることができた。また、全市研究発表会当日においても「『深い学び』の実現に向けて単元を貫く問いをどうつくる－大島・藤川・山口実践に学ぶ－」と題してご講演いただき、全市社会科教員に向けて多くの示唆を与えていただいた。
　当日は、教育センター研修室６よりTeamsおよびGoogle meetで全市の中学校に配信した。内容は、研究部長より「これまでの研究の経緯とその内容について」と題した説明、歴史的分野と公民的分野の研究委員長より紙上発表の概要説明、収録した地理的分野の公開授業動画の配信、最後に中本准教授の講演を行った。
　事後アンケートも実施し、今後の活動のための総括材料とすることができた。
・大阪市立中学校総合文化祭に参加し、作品展示と生徒研究発表会を実施した。
・全国中学校社会科教育研究大会名古屋大会に参加し、全国の動向を把握するなどの成果を得た。
・近畿中学校社会科教育研究会兵庫大会に参加し、兵庫県の研究資料を社会部で共有した。
・近畿中学校社会科教育研究会・大阪府公立中学校社会科教育研究会と連携し、令和７年度に開催する全日本中学校社会科教育研究大会大阪大会の実行委員会を立ち上げて準備を進めた。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

## 数学部

### 未来を創造する数学の主体的・対話的で深い学びをめざして

中西　啓（佃　中）

・数学部では、今年度の研究主題を「未来を創造する数学の主体的・対話的で深い学びをめざして」として取り組み、研究発表会は、３つの研究授業と講師先生の講演会で構成しました。
・前年に引き続き、コロナ禍の影響により、例年通りの活動が行えず、制限のある中でしたが、大阪市教育委員会、教育センター等の関係の皆様のご指導・ご助言、ご支援を賜り、創意工夫を凝らして、研究発表会を実施することができました。
・今年度は、３年ぶりに天満中学校体育館を会場とした研究発表会を開催しました。３つの研究授業を花乃井中学校・淀川中学校・南中学校の３校で撮影した動画等を「数学部特設サイト」で公開し、各校で事前視聴がで

きるようにしました。
・研究発表会当日は、３名の研究授業者の発表、近畿大学 教職教育部 准教授　西仲　則博 先生の「2030年以降の社会を見据えた数学科における思考力・判断力・表現力の育成への取り組み」をテーマとしたご講演を実施しました。
・公開授業では、これまでの研究発表会の伝統を継承しつつ、ICT機器を活用するなど新しいスタイルを模索するなかで行うことができました。いずれの授業も、数学部として、脈々と大切にされてきた丁寧な授業づくりに取り組み、成果を積みあげ、大阪市の子どもたちの学力向上に一石を投じれたのではないかと考えています。
・当日参加していただいた皆様のご意見を「数学部特設サイト」で回答をお願いした「数学部アンケート」にて集約し、成果と課題を分析して大阪市中学校数学教育のさらなる発展を進めていく所存です。

―――＊―――＊―――＊―――＊―――＊―――＊―――＊―――＊―――＊―――

理科部

## 主体的な対話を通し、未来を担う科学的な思考・表現力を育む理科教育

谷塚高雅（加美中）

・今年度も、研究主題を２つのグループで分担し、研究を進めた。
・全市研究発表会は、茨田中学校の教員２名による研究授業を事前に撮影・編集・DVD化したものを全８会場に送付し視聴する形で進めた。教材の工夫により生徒たちの主体性を喚起する実践発表であった。その後の研究協議では、ICTの活用方法やさまざまな実験方法などについての議論が活発に行われた。
・ブロック研究発表会では、海遊館の学芸員を講師に迎え、teamsによるライブ配信を実施した。質疑応答では視聴された先生方から活発な意見が出るなど、理科教員の授業改善のヒントとなった。
・生徒理科研究発表会では、夏休みの理科の自由研究課題や部活動（理科部・科学クラブ）の研究課題の研究発表と展示発表を行った。「プレゼンテーションの部」「発明工作の部」「実験・研究の部」の３部門で発表を行い、優秀な作品や発表は大阪市立中学校総合文化祭や大阪府学生科学賞に出展した。生徒の研究への意欲と実験技量の向上や理科教員の指導力向上に役立った。
・理科教員観察実習研修では、「淀川水系－イタセンパラ保全フィールドワーク」「講演－マイクロプラスチック」「南港野鳥園－野鳥観察」「二上山－シダ植物めぐり」「講演－淀川の野鳥」など、理科教員の研修の場を提供し、授業力向上への支援を行った。
・全国中学校理科教育研究発表会三重大会へは４名が参加した。「教育課程」「学習指導・評価」「観察・実験」「環境教育」についての研究発表・研究協議会に参加し、その成果を全市研究発表会で報告した。

―――＊―――＊―――＊―――＊―――＊―――＊―――＊―――＊―――＊―――

音楽部

## 未来を切り拓く、豊かな感性を育む音楽教育の創造
### ～主体的・対話的で深い学びの実現に向けて～

有田伸一朗（大淀中）

心の教育を担う教科「音楽科」では、令和元年度に研究主題を一新し、次年度の近畿音楽教育研究発表会大阪大会に向け、４つの研究班による研究を進めている。

コロナ禍で、今もなお様々な制限があるが、年間を通して中学校学習指導要領音楽科の目標である「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成すること」の達成に向けて研究や研修を行っている。

ブロック研究発表会では、若手教員を中心に８会場で研究授業を行った。研究授業として１学期中に収録した授業録画を視聴し、研究協議と情報交換を行った。

全市研究発表会では、近音研大阪大会のプレ授業と位置づけ４領域４会場で研究発表会を開催した。① 歌唱領域：１年歌唱【題材名】「曲想を生かして歌唱しよう」授業者：沖 正樹 指導教諭（南港南中）② 器楽・創作領域：２年創作【題材名】「音の進み方を意識して、お箏を使って歌をつくろう」授業者：北尾 祐子教諭（加美中）③ 鑑賞領域：１年鑑賞【題材名】「三味線のルーツをたどろう」授業者：島田 靖子教諭（瓜破西中）④ ICT・創作領域：１年創作【題材名】「音のつながり方の特徴を生かして旋律を作ろう」授業者：吉田 季陽子教諭（玉津中）。指導・助言は大阪芸術大学特任教授 尾張 佳子先生、元大阪教育大学特任教授 田中 龍三先生、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 河合 紳和先生、大阪市教育センター 出口 みか総括指導主事にお願いした。各研究班の進捗状況を確認し、コロナ禍における新学習指導要領に沿った授業実践や音楽の学力、評価等について研究発表会を行った。対面で研究授業や研究協議、情報交換ができたことが何より大きな成果であった。

夏季研修会では、文科省初等中等教育局教育課程課教科調査官 河合 紳和先生を講師として「新学習指導要領実施１年を振り返って」～音楽科におけるその成果と課題～、能楽師 成田 達志様、西野 翠舟様による「能楽師から学ぶ『敦盛』の魅力とみどころ」～みんなで開こう！！能楽への扉～、大阪府立夕陽丘高等学校音楽科生徒の声楽演奏という内容で研修を実施した。また、冬季研修会を文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 志民 一成先生、音楽の授業（鑑賞授業）を作る会代表 粟飯原 喜男先生を講師として１月に予定している。

各研究班で独自の研究を進めているが、鑑賞(文楽)研究班では６月に第１回文楽研修会として国立音楽劇場で、「二人三番叟」「〈解説〉文楽へようこそ」「仮名手本忠臣蔵」二つ玉の段/身売りの段/勘平切腹の段を鑑賞した。11月に高津小学校で子ども文楽の発表を鑑賞した。１月に第２回文楽研修会として、二代目 杵屋 勝九郎先生を講師に迎え、三味線の基本的な奏法について三味線実技指導を、続いて第３回文楽研修会として国立文楽劇場で

竹澤 宗助先生を講師に、太棹三味線と文楽についての研修を予定している。
今後は、令和５年度に開催予定の近畿音楽教育研究大会大阪大会に向け、授業者への支援体制の充実と各研究班による研究を更に深めながら、音楽科組織として音楽科教育の質の向上と教員の実践的指導力の向上に取り組む。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

美術部

## 美術科の本質に迫る学習をめざして
### ～感性や造形感覚を高めるために～

石川文子（東陽中）

一昨年度、昨年度と同様に新型コロナウィルス感染症の感染拡大による、影響は大きく、授業の短縮や慣れないオンラインでの授業など、子どもたちだけでなく教員にも先行きを見通せない状況に、不安やストレスにさらされることとなりました。そのような中でも美術科においては常に課題を見据え、何よりも作品の制作から子どもたちを育成することを第一に取り組んできました。それぞれの学校においてはこれまでに経験したことがないような苦労や困難に対応される日々が続きました。予想困難な状況の中においても学校は何を教えるべきなのか、子どもたちにどのような力をつけるべきなのかを追求しなければなりません。昨年度より、新学習指導要領は、本格実施となっています。本研究会ではできることをできる範囲で「美術科の本質に迫る学習をめざして～感性や造形感覚を高めるために～」を研究主題に活動を進めてきました。これからは、子どもたちが活躍する20年後、30年後の未来を見据えた教育が必要となります。今年度も子どもたちが意欲を高め、進んで美術の学習に取り組み、更には感性や造形感覚を高めるために全市研究発表会、自主研修会、各種展覧会（総合文化祭・美術展・美術部展、造形展　他）の運営において，さらに充実した取組を進めることができました。「造形展」においては、今年度も大阪芸術大学のご協力により開催することができました。
厳しい状況下ではありましたが、いずれにおいても来年度につながる有意義な研究を進めることができました。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

保健体育部

## ソーシャルディスタンスを確保した新しい保健体育づくり
### －格技（なぎなた）授業の研究－

田中城明（横堤中）

昨今のコロナ禍の影響で武道を行う制限が厳しくなり、授業ができない時期もありました。そんな中、ソーシャルディスタンスを確保してできることはないかと試行錯誤して、数年前より墨江丘中学校で取り組んでこられたのがなぎなたの授業でした。武道は、我が国固有の文化であり、相手の動きに応じて、基本動作や基本となる技を身に付け、相手を攻撃したり相手の技を防御したりすることによって、勝敗を競い合い互いに高め合う楽しさや喜びを味わうことのできる運動です。また、武道に積極的に取り組むことを通して、「礼に始まり、礼に終わる」といった武道の伝統的な考え方を理解し、相手を尊重して練習や試合ができるようにすることを重視する運動でもあります。オリンピックや国際大会でなじみのある柔道や剣道、空手は町道場を通じて出会う子どももいます。そういう意味ではなぎなたはそんな機会も少なく、全員がゼロからの学びのスタートとなり、運動が苦手な生徒が積極的かつ意欲的に取り組めるようになりました。今回の研究発表会がなぎなたに関わらず、大阪市の保健体育科の先生方が新たなことに挑戦するための一助になったことが成果であると考えます。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

技術・家庭部

## いのち輝く未来社会を実現(創造)する技術・家庭科教育
### ～深い学びへと導く、見方・考え方を働かせた実践～

村上美津子（新東淀中）

- 全市研究発表会を集会形式で開催し、技術分野が授業実践の紹介（授業は事前録画）、家庭分野が研究発表を行った。技術分野は、「Ａ　材料と加工の技術」において「材料と加工の技術」～生活に合わせた本棚の設計・製作～をテーマに　構造と部材を丈夫にする方法について技術の見方・考え方を働かせて様々な視点から考察して問題点を見い出した後、よりよい方法を導き出すことができるよう、授業の構成を工夫した。家庭分野は、「Ｂ　衣食住の生活（4）衣服の選択と手入れ」において、「持続可能な衣生活をめざして　～自分の選んだ衣服を大切に長く使うには～」をテーマに主体的な学びと対話的な学びを往還する授業研究に取り組み、自身の実生活に生かす力の育成を図った。
- 第61回近畿地区中学校技術・家庭科研究大会（京都大会）が３年ぶりに対面形式で開催され、家庭分野が上記内容で研究発表を行った。分科会では京都の中学校で公開授業が実施され、新学習指導要領に示される問題解決学習の授業を参観し、生徒の学習活動の様子を確認することができたことは大変有意義であった。視覚的にわかりやすく表示するためにモニターを複数台使用し、ノート、ワークシートを学習者用端末の中に組み込んでいることなど、積極的で効果的なICTの活用について学ぶことができた。
- 第22回創造アイデアロボットコンテスト大阪市中学生大会兼近畿大会を開催し、基礎部門、計測・制御部門、応用・発展部門、ライントレース部門、相撲部門に23校、73チームが参加した。各チーム、創意工夫してロボットを製作し競技が行われた。異なる視点、発想を交流することでさらなる工夫改善の意欲を高めるよい機会となった。本コンテストの結果、４校、６チームが全国大会に進んでいる。
- 大阪市立中学校総合文化祭展示部門に参加し、実習・実技の成果の交流を図ることができた。優秀作品は近畿大会、全国大会に出品し、全国大会出品作品の１つが日本教育新聞社賞を受賞している。
- 令和５年度の近畿地区中学校技術・家庭科研究大会（大阪大会）に向けて府市合同技術家庭科研究会に参加し、研究主題に基づき、見方・考え方を働かせた実践研究を進めている。

英語部

## PDCA サイクルを用いて主体的に資質・能力向上できる生徒の育成

―その資質・能力を最大限に生かしてコミュニケーションがとれるカリキュラムの構築をとおして―

松村　隆（我孫子南中）

全市研究発表会においては、本年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、公開授業を行わなかった。発表会の内容は、まず「小中連携・小中接続についてみんなで考えましょう」というテーマで桃谷中学校の我妻先生より実践報告を行っていただいた。また、講演に関しては、大阪教育大学 特任教授　山岡 賢三様をお招きして、「生徒が主体的に学ぶカリキュラムのあり方」と題してご講演頂き、これからの英語教育に関して、どのようにすれば生徒が主体的に学習に取り組むのか、またその評価方法をどうすれば良いのかを考える貴重な講演となった。

―――＊―――＊―――＊―――＊―――＊―――＊―――＊―――＊―――＊―――

道徳部

## 多面的・多角的な視点で考え議論する道徳教育の創造

－ペアワークやグループワークを取り入れた授業づくりを進める－

田中紹亮（港南中）

土曜学習会・道徳教育推進委員会・全市研究会等の開催。特に、令和４年度　文部科学省「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」９校の取り組みにおいて、公開授業では先生がたが工夫を凝らし、主体的で対話を大切にした授業づくりに挑戦されました。また、触発者の視点での教材を深めるペアワーク・グループワークの実践が発表され、道徳実践力の向上を図ることができました。また、昨年度に続き、新たな教材の学習指導案集をまとめ作成しました。

指導上の留意点には、学習指導要領のポイントや何を押さえて発問するかを掲載しています。多面的・多角的な視点で考え議論する道徳の授業づくりに役立てるよう工夫がされています。各中学校へ配布する予定です。

―――＊―――＊―――＊―――＊―――＊―――＊―――＊―――＊―――＊―――

特別活動部

## 生徒一人ひとりが主体的に生きる特別活動の創造

進藤文代（白鷺中）

特別活動部では「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」という資質・能力を生徒一人ひとりが自ら身につけていくことが大切であるという考えから、「生徒会活動を中心とする特別活動」と「キャリア教育をはじめとする進路指導」の二本柱で取り組みを推進してきた。

全市研究発表会では、前半は大阪市立白鷺中学校　泉 和樹教諭に「第66回全国特別活動研究協議大会東京大会報告」と「令和４年度　大阪市ブロック別生徒会交流会報告」を（1B）東淀中学校　飯山教諭　（2B）高倉中学校　塩見教諭　（3B）南港南中学校　佐和教諭　（4B）田島中学校　紙原教諭より発表した。

全国特別活動研究協議大会東京大会の報告では、はじめの全体会で文部科学省初等中等教育局視学官　安部 恭子先生による「一人一人の多様な幸せと社会全体の豊かさの実現（ウェルビーイングの実現）」の講演があり、現在の日本型学校教育において、学習動画の配信は「個別最適の学び」である一方で、「孤立した学び」になりうるデメリットもあり、個別と協働の共存の必要性を考えていくべきである、という内容であった。

次に、分科会では実践報告として、東京都大田区立御園中学校の取り組みでは、大田区 28 校の中学校が、1 学期と 2 学期の終業式の日（年 2 回）におこなわれる生徒代表者意見交流会（生徒会交流会）に全校が集まり、過去 10 年間の活動のふり返りをするなどして、生徒会活動を形骸化させないという内容であった。また、愛媛県東温市立川内中学校では、全校生徒での話し合いや、ICT（タブレット）を活用した意見集約をおこない、内容を可視化して全体で共有する取り組みがある。そして、生徒発案の企画を取り上げ、生徒が主体となって準備・運営・反省をおこない、生徒会活動の中で協働できる仕組みがつくられていることが発表された。全体のまとめとして、生徒の社会参画や人間関係の形成を図っていくことを視野に入れながら、特別活動を取組むべきであるという結論に至った。

「大阪市ブロック別生徒会交流会報告」では、各ブロックで「スマホの使い方のルール」について話し合った内容を共有した。各ブロックで決まった代表校が、11 月の大阪市スマホサミットに参加し、意見発表がおこなわれる。大阪市内の中学生にとって、スマホ依存の傾向があることに生徒たちが目を向け、「どうすればスマホ依存を防ぐことができるのか」大阪市内の中学生が主体となり、課題解決を図るためのルール作りに取り組んでいる。

後半は、キャリア教育講演として、ヒューマンキャンパスのぞみ高校　川島 浩 様より、「SP トランプ出前授業を体験！21世紀スキル（自己理解・キャリアプランニング能力）の育成」という内容で講演いただいた。SP トランプとは、性格をあらわしたカードがあり、自分にあてはまるものを取捨選択し、その選んだカードで自己分析につなげるというものである。実施する学年（年齢）によって、説明内容を変えることもでき、進路（職業）の選択に活用することができるものである。また、「タイプ別やる気を出させる褒め言葉」は、生徒の学習活動や委員会活動などのさまざまな場面で活用することができ、リーダーの育成や生徒の意欲を高めることに生かせるというメリットがあった。大阪市内の中学校でも、これをキャリア教育として実施している中学校もあった。複雑なルールはなく、誰でも簡単に楽しくキャリア教育に生かすことができるものであった。

今後も特別活動部では、さまざまな実践事例をもとに、生徒会活動とキャリア教育の視点から特別活動の研究を進める取り組みを推進していきたい。

生活指導部

## 生活指導上の今日的な課題を把握し、地域・関係機関と連携・協働した効果的かつ組織的な生活指導体制を研究する

屋島豊市（十三中）

○講演　『頑張れない子どもたちの理解と支援』
立命館大学大学院人間科学研究科・一般社会法人日本ＣＯＧ－ＴＲ学会代表理事
児童精神科医　宮口幸治氏

【宮口先生講演】
非社会的な行動を繰り返し起こす少年のほとんどが認知機能に課題を持っているという現状を過去の研究をもとに説明し、認知機能を強化することが状況判断などの社会スキルを向上させることができるということを様々な検証結果を用いて説明した。
宮口先生が発案されたコグトレは、対人スキルの乏しさで適切な対人認知ができずにトラブルになってしまうことが多い問題少年に対し、社会面や学習面、身体面で現在の学校教育で抜けている部分を補う役割を果たしている、そしてコグトレはどの様な問題少年でもトレーニングを積み重ねることで成長することができるという内容を伝えた。
最後に、頑張ることができない子どもに対し、親や教師は「安心の土台」として伴走者の役割を担っていること。そしてその伴奏者は子どもの充電器であるといる例を用い、電気がなくなったらいつでも充電させてもらえるという安心感を与えることで子どもは安心して出かけることができるということを伝え講演を終えた。

○研究発表　「コグトレからのアプローチ」～弘済中学校における生活指導～
大阪市立弘済中学校 教諭　長谷川　哲

【長谷川先生発表】
弘済中学校では、発達に課題を抱える生徒も多く存在しており、問題行動の件数が多いことが課題であった。この課題を解決するために生徒の認知能力に着目し、コグトレを用いての認知能力の訓練を学校全体で取り組んだ結果、問題行動は減少傾向となった。この取り組みを通して、コグトレのトレーニングと問題行動の相関性を考察し、コグトレを行うことで、認知機能の向上に明確な変化が見られ、指導の時間が短くなり、問題行動の振り返りができるようになるという、生徒の変化も見られるという実践報告であった。

――＊――＊――＊――＊――＊――＊――＊――＊――＊――

特別支援教育部

## 子どもたち一人一人が、共に学びに向かい生きる力を育む教育をめざして

金森茂生（矢田西中）

研究活動について
・第59回近畿特別支援教育連絡協議会大阪市大会　第６分科会（交流及び共同学習）
交流及び共同学習に安心して参加できるための取組　～安心した学校生活のために～　と題して、以倉康平先生(市岡中学校)が誌上にて発表。
・全市研究発表会
「ポジティブ行動支援を理解して実践する～行動問題への対応を中心に～」と題して、野田航准教授（大阪教育大学)の講演を新北野中学校より Teams 配信で実施。
・インクルーシブ研修会
第１回　令和４年７月４日（月）　会場：大阪市立巽中学校（Teams でも同時に配信）
内容：テーマに沿った内容の情報交換　テーマ：「自立活動」、「不登校」
第２回　令和４年11月29日（火）　会場：大阪市立巽中学校（Teams でも同時に配信）
内容：講義「通級って何？　～通級指導教室の今とこれから～」
大阪市立西中学校　寺本　紀夫　教諭

交流行事について
・大阪市中学校特別支援教育担任者会と協力して実施される全市的行事が数年ぶりに開催された。合同うんどう会は４年ぶり、生徒作品展は３年ぶりの開催となった。ただ、ふれあいステイ、ふれあいデイキャンプについては新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止となった。

その他
小中連携会議等、幼稚園・小学校との連携では、今年度開催された第 59 回近畿特別支援教育連絡協議会大阪市大会（小学校主催）において、小学校と連携して企画運営を進めた。

――＊――＊――＊――＊――＊――＊――＊――＊――＊――

保健養護部

## 養護教諭の専門性と資質の向上をめざして

安藤亜紀（巽　中）

・研究主題に基づき、各ブロックにおいて共同研究を進めています。
全市研究発表会では、第２教育ブロック（ｂ旭区・城東区・鶴見区・東成区）共同研究発表「養護教諭の資質向上をめざして　～５分で伝えるショート保健教材～」をテーマに発表された。
子どもたちが、自ら健康に関心を持ち、行動に移せるように、ショート保健教材を作成し各校の実態に応じて編集し、実践された。各校の実践を情報共有し養護教諭の資質向上につなげることができた。また、内科検診や歯科検診の事前指導では、「学校の新しい行動様式」から会話や発声を控えることを取り入れたスライド教材を使い、更衣の必要性や検診の意義を正しく理解させ、行動変容につなげることができた。
・12月に大阪公立大学大学院 看護学研究科 准教授 佐保美奈子先生をお迎えし、学習会「助産師から見た性に関する指導の必要性」を実施した。今後ともご理解ご協力のほど、よろしくお願いします。

情報技術部

## 多様化する情報を活用する力を身につける

近藤正宏（本庄中）

○情報技術部は、情報教育分野・新聞教育分野・統計教育分野の３分野から成り、互いに関連し合うことを基本としながら研究を進め、全市発表を実施している。つまり、各分野の独自研究および３分野での調整・整理の２方面の取組みを適宜行うことによって構築され得る部門である。したがって、その特性上、打ち合わせに要する時間は、全教科・領域部門の中でも極めて多い方であることから、過去２年間はコロナ禍の下では困難が多く、発表形態も縮小していた。しかしながら、今年度は、（コロナ禍の影響もやや収まる状況の中）本来の形態により全市発表を実施することができた。各分野の発表については、次のとおりである。

【統計教育分野】　『大学入試における統計的な扱いについて』

発表者（講師）：大阪府立桜和高校　川口伊佐夫 校長

・董中の箕輪校長の進行で、桜和高校の川口校長により、最近の大学入試の内容と傾向についての分析の講話をいただいた。統計的観点が含まれる大学入試問題が、今後も重要視され、増加する可能性が示唆された。

【新聞教育分野】①『全国新聞教育研究大会（千葉県大会）』

発表者：築港中　西中善彦 校長

・８月２日㈫ ３日㈬ に行われた全国大会（千葉県大会～明日に向かって生きる力を育む新聞教育～）に参加し、内容の報告を行った。

②『NIE 教育の現状』

発表者：南中　林　葉子 教諭

・新聞に関する興味・関心、新聞教育による言語能力の伸長を目指すためのいくつもの提案が行われた。その一つとして、“ハガキ新聞”についての解説を行った。

【情報教育分野】　『ICT 教育について～新ソフトの提案～』

発表者：新東淀中　増田卓三 教諭

・新東淀中の増田教諭および(株)SKY の担当者による進行で、タブレットを活用しながら生徒管理の新メニューの試行・体験が行われた。大阪市がまだ関わっていない先進的なソフトに対し、多くの参加者が関心を持ち、今後の実践配備に繋がる期待が喚起された。

○当日は40名超の参加者を得ての発表となり、大阪市における情報技術部の役割の重要さを再認識したと共に、今後も３分野が独自性と統一性の両面を保持しながら進展していくためには、さらなる工夫と研鑽が必要であることが確認された。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

教育メディア部

## 「生きる力」と「感動する心」をはぐくむ教育メディアの研究

### ～学校図書館、放送・視聴覚教育を通して～

田村敬子（相生中）

放送・視聴覚教育部門では、７月に「第39回 NHK 杯全国中学校放送コンテスト大阪大会」の企画・運営を行い、朗読・アナウンス・ラジオ番組・テレビ番組部門において、優れた発表を選出した。８月に開催された「全国大会　決勝」では、アナウンス部門において入選、朗読部門において優秀賞を受賞した。９月に開催したブロック研究会では、４ブロック合同で Teams により大阪教育大学　寺嶋 浩介 准教授に講話をしていただいた後、実践交流を行った。また11月に開催された「大阪市立中学校放送コンテスト新人大会」には、読売テレビの大田良平 アナウンサーに審査に加わっていただき、明年のコンテストにつながる有意義な大会となった。

図書館教育部門では、「もっと図書館！」を作成・配信し、研究大会やコンクールの開催、結果発表などを知らせた。また、「第68回大阪市青少年読書感想文コンクール」「第 40 回大阪市読書感想画コンクール」の企画・運営を行い、表彰式を開催した。

10月に開催した全市研究会は、「学校図書館の改革～学校図書館補助員から学校司書へ～」というテーマで開催し、大阪市中央図書館 学校図書館支援グループより講演していただいたあと、グループに分かれて交流を行った。それぞれの学校図書館の運営、子どもたちの活動を進めるための参考とすることができた。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

教育課題部

## 未来を切り拓く力をはぐくむ教育課程の編成

上田　明（茨田北中）

研究主題のもと、全市研究発表会において、学びコラボレーターの西本　晃氏に、「未来を切り拓く力を育む学校　～力のある学校を目指して～」と題してご講演をいただきました。

西本先生の校長時代、新巽中学校、築港中学校での新しい教育課程のチャレンジ、教育実践を中心に、現代社会に必要な学校の力を高めるための取り組みをご紹介いただきました。

「諸問題を乗り越えるためには理論が必要である。」「学力・生きる力を伸ばすためには、研究を重ねなければならない。」「学力向上こそが教員の責務である。」などの格言とともに、複数担任制や小中一貫教育、タテ持ち型授業、まなボード活用の授業展開、ポスターセッションや班内プレゼンテーションの導入など、いろいろな仕掛けをはじめ、企業とタイアップした取り組み企画や資金援助、大阪に効果のある学校改善についてご指導いただきました。

当日は、31 名の参加者があり、力のある学校を目指す必要性を、それぞれの立場でひしひしと感じることができ、今後の学校経営、学年経営につながる原点ができました。

# ブロックより研究活動・成果について

## 第1ブロック　豊かな心の醸成と社会の変化や課題に対応できる資質・能力の育成

### －「新たな学び」の実践と交流－

土屋　雅（大桐中）

○新型コロナウイルス感染症の拡大が一進一退するなか、ブロックの研究主題をもとに各部門で主題を設定し、調査・研究活動を推進した。

○市内が４ブロックに編成されて初めてとなる「ブロック研究発表会」を実施することができた。特に若手教員にとっては、教員相互の情報交換（交流）や研修の良い機会となった。

○感染症の拡大を契機に、各校で一人一台端末の利用が一気に進み、ICT を活用した授業やアンケートにも活用されている。

また、教員のオンラインによる研修も増え、10月12日に開催された「全市研究発表会」でも、いくつかの教科・領域で活用されていた。

―――＊―――＊―――＊―――＊―――＊―――＊―――＊―――＊―――＊―――

## 第２ブロック　主体的で、協働的な学び手を育む教育の創造

### －「つながり」を生かした学びの場を通して－

渡邊進司（都島中）

ブロック研究主題のもと、学びを止めない教育活動として、教科・領域ごとに調査・研究が進められた。ブロック研究発表会を、９月２日を基準日とし開催した。コロナ禍において構築されたＩＣＴを活用するなど、それぞれ創意工夫された学びの場が提供された。10月12日実施の全市研究発表会では、各部門の更なる研究活動の発表があった。今年度は、新ブロックとして集合研修の初の開催でもあり、参加人数などの把握など、手探りの準備もあったようだ。学校・教職員間の協力や応援・交流などが多くに見られた研究発表会であった。改めて、「つながり」の大切さを、感じることができた研究活動であったと考える。

―――＊―――＊―――＊―――＊―――＊―――＊―――＊―――＊―――＊―――

## 第３ブロック　豊かな心の醸成と持続可能な社会の創り手としての資質・能力の育成

### －新しい未来の姿を構想した実践交流－

児玉敏和（成南中）

○ブロックの研究主題をもとに各部門で主題を設定し、部門の特性を活かした方法で研究活動を推進した。

○９月２日の基準日に「ブロック研究発表会」を実施した。新型コロナウイルス感染予防のためオンラインで実施した部門もあったが、多くの部門では集合での発表会を実施することができた。いずれの方法でも、各部門教員の情報交換や研修のよい機会となった。

○新型コロナウイルス感染対策として、生徒一人一台端末の活用や教員研修のオンライン、オンデマンドでの実施が定着しつつある。

生徒用端末を効果的に活用する授業内容の研究と、対面とオンラインやオンデマンドを組み合わせた教員研修の在り方の研究をさらに進めたい。

―――＊―――＊―――＊―――＊―――＊―――＊―――＊―――＊―――＊―――

## 第４ブロック　見方・考え方を働かせ資質・能力を育み豊かな未来を切り拓く教育の創造

横田勝一郎（東住吉中）

本ブロックでは、９月２日を基準日として、ブロック研究発表会を多くの部門で実施しました。全市研究発表会と兼ねた部門も複数ありました。今年度は、残念ながら公開授業は実施できませんでした。しかし、授業実践報告、研究者による講演や指導法研修会、チームズを使った講義、生徒会交流会など多様な取組が行われました。来年度については、可能であれば公開授業を実施したいと考えている部門もあると聞いています。

令和４年度 大阪市立中学校教育研究会・全体研修会

令和４年11月10日㈭
於：大阪市教育センター

# 新学習指導要領における「総合的な学習の時間」

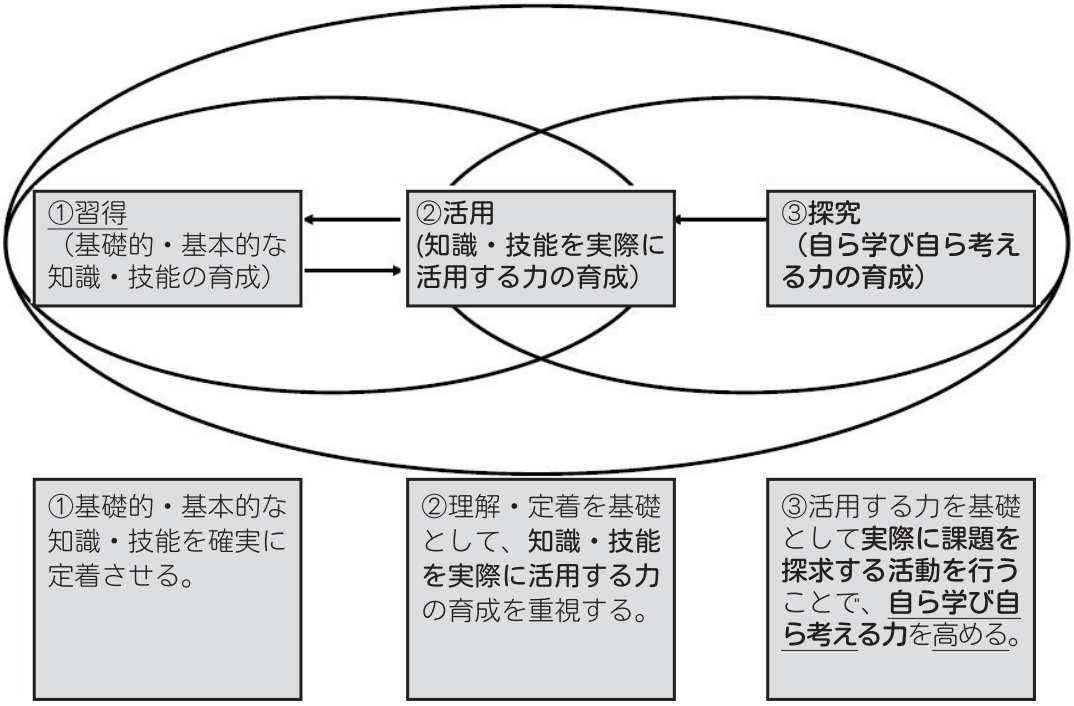
関西学院大学　教育学部教授　佐　藤　　真

**【総合的な学習について】**

「教育の目的はよりよい人生をどう送るか」という観点から、「知識・技能・思考・判断」という力を何に生かすかという部分の育成が大切になる。

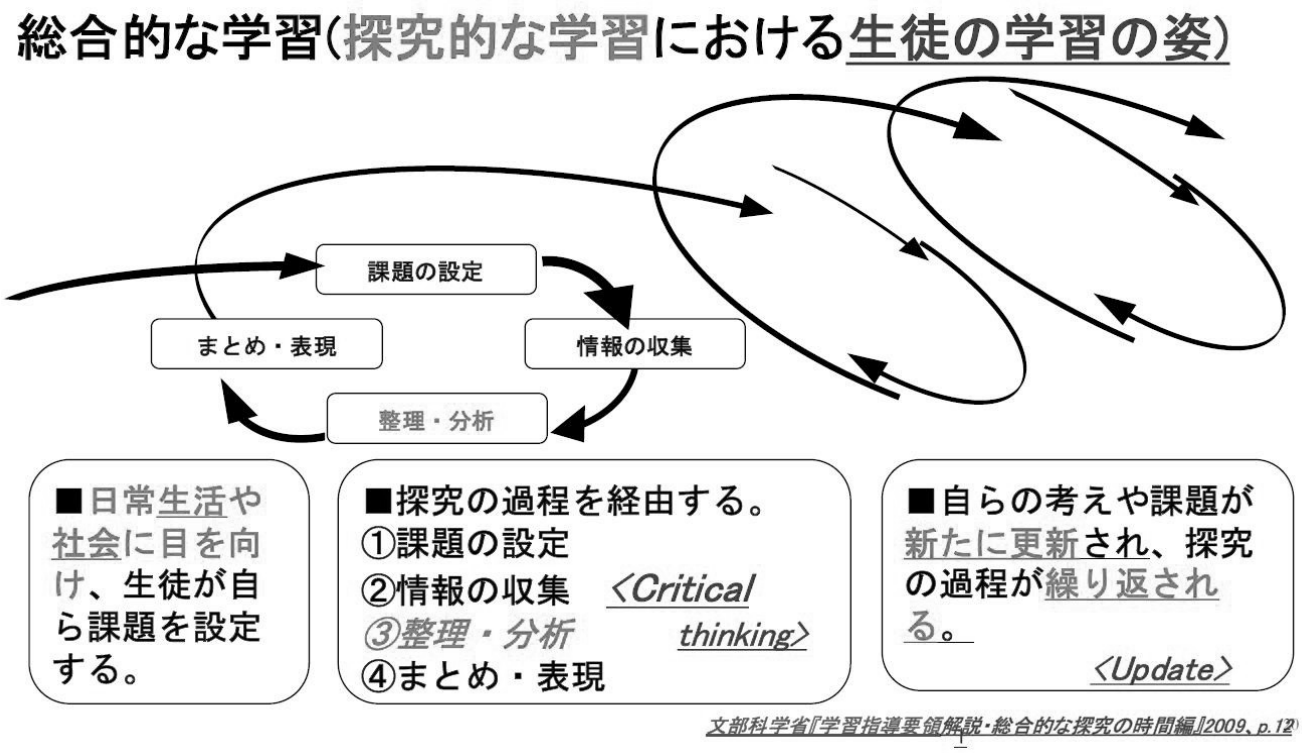
従来の「基礎・応用・発展」という学習では基礎の上に応用、発展と積み上げる縦方向になっている。これを「習得・活用・探究」へと変えていくことで、習得・活用から探究、探究から習得・活用というように往復的な学びへと変わっていく。教科で「習得・活用」、総合で「探究」に取り組む（下図）。

## 教科で「習得・活用」と総合中心で「探究」



「習得・活用・探究」で自ら問い続け、動いて学び続ける姿勢を育成する。自己評価と自己調整力を養い、メタ認知の能力を高める。

（下図：探究的な学習における生徒の学習の姿）




文部科学省『学習指導要領解説・総合的な探究の時間編』2009、p.12

・（教科の評価でも同様だが、）評価をするとき資料が必要になるため、生徒の取り組みをデジタルで記録できるような工夫をし、できるだけたくさんの資料を残すようにするとともに、評価の基準をしっかりと決めておく。

**探究の取り組みについて**

・情報や知識はタブレットなどで短時間で得られる。そこで探究では、「グラフ，表，図」を言語化する能力の育成に重点を置く。また、課題設定も生徒自身が行えるようにする。

　タブレットなどでの学習では、ただ見ることに陥りやすい。これを防ぐためには、内容を要約することが重要になる。文字数は指定をし、要約をする上で他集団を意識する。例えば、１つ下の学年の子供たちに説明したとき、伝わるような内容にする。（他集団の他の例：地域の人など）

・考える力を育成するため、考えるとはどういうことか、「考えるための技法」について紹介があった。

**【考えるための技法】**

・順序をつける
　複数の対象について、ある視点や条件に沿って対象を並び替える。
・比較する
　複数の対象について、ある視点から共通点や相違点を明らかにする。
・分類する
　複数の対象について、ある視点から共通点のあるもの同士をまとめる。
・関連付ける
　複数の対象がどのような関係にあるかを見付ける。
　ある対象に関係するものを見付けて増やしていく。

・多面的に見る・多角的に見る

対象の持つ複数の性質に着目したり、対象を異なる複数の角度から捉えたりする。

・理由を付ける（原因や根拠を見付ける）

対象の理由や原因、根拠を見付けたり予想したりする。

・見通す（結果を予想する）

見通しを立てる。物事の結果を予想する。

・具体化する（個別化する、分解する）

対象に関する上位概念や規則に当てはまる具体例を挙げたり、対象を構成する下位概念や要素に分けたりする。

・抽象化する（一般化する、統合する）

対象に関する上位概念や法則を挙げたり、複数の対象を一つにまとめたりする。

・構造化する

考えを構造的（網構造・層構造など）に整理する。

(文部科学省『学習指導要領(平成29年告示)解説・総合的な学習の時間編』2018)

# 令和４年度　大阪市立中学校教育研究会　評議員会記録

**第５回　評議員会**

令和 4 年 11 月 10 日(木)　14：30～
於:大阪市教育センター　8 階研修室 5

(1) 全市研究発表会について
(2) 研修計画について
(3) 研究集録『研究の歩み』『会報』について
(4) その他
　① 令和５年度の予定について
　② 小中一貫教育委員会実施について
　③ 会計事務連絡
　④ 連絡事項

**第６回　評議員会**

令和 5 年 1 月 30 日(月)
於:大阪市教育センター　7 階研修室 4

(1) 本年度のまとめ
(2) 本年度会計について
(3) 令和５年度の研究活動について
(4) その他
　① 来年度の日程について
　② 中教研会報について
　③ WEBページについて
　④ 本部役員選考委員会について
　⑤ 中教研組織改選等について
(5) 評議員研修会
　「総合的読解力の育成について」
　大阪市教育委員会・学校教育推進担当部長
　第４教育ブロック担当部長　盛岡　栄市　様

## 令和５年度、大阪市立中学校教育研究会、組織改選等について（予定）

| 日　程 | 内　　容 |
|---|---|
| 3月　下　旬 | ○書記より各校に、「部門別会員名簿作成依頼」を送付 |
| 4月 7 日(金) | ○各学校において「部門別会員」を確認 |
| 4月14日(金) | ○各学校より部門別会員名簿を書記に提出<br>○本部役員選考委員会による本部役員の選考 |
| 4月19日(水) | ○本部役員の指名、全体会の案内状を送付 |
| 4月19日(水)<br>～<br>4月26日(水) | ○書記より、各学校の部門別会員名簿を17部門の部長に送付 |
| 4月　中　旬<br>～<br>4月　下　旬 | ○4 つのブロック委員長へ文書「ブロック委員長の役割」を送付<br>○各ブロック委員長より各部門担当校長名簿⇒書記に送付<br>○書記が各部長に各ブロックの担当校長名を連絡<br>○各部長とブロック担当校長とで専門委員の調整 |

| 日　程 | 内　　容 |
|---|---|
| 5月　上　旬 | ○各部門の部長は、部長、副部長、会計、小中連携担当、ICT、HP担当及び専門委員の選出を行う。⇒書記に送付<br>（副部長は 2～3名程度、専門委員は各ブロックに 3 名程度） |
| 5月　中　旬<br>～<br>5月　下　旬 | ①各ブロックにおいて委員総会を開催し、ブロック委員長、副委員長、会計、専門委員の選出を行う。⇒書記に送付<br>※ブロック委員長と部長は原則兼ねない。<br>※専門委員の選出の際は、各部長との調整を行う。<br>②ブロックの研究主題を検討・決定する。⇒書記に送付 |
| 5月17日(水) | ○中学校教育研究会全体会　※本部役員の選出<br>○各研究部<br>・専門委員及び部長、副部長、会計、小中連携担当、ICT、HP担当を選出する。⇒書記に送付<br>・研究主題等を決定する。⇒書記に送付 |
| 6月　中　旬 | ○各ブロック<br>ブロックの教科・領域担当校長と各部長とで連携し、ブロック内の専門委員の追加・訂正を行う。 |

※表中の提出・送付となっているところは、Skip による送受信で行う予定。

## 令和５年度の日程

**中教研全体会… 5月17日 (水)**
**ブロック研究発表会 実施基準 … 8月30日(水)・31日(木)**
**全市研究発表会 … 10月11日 (水)**
**全体研修会 … 11月９日 (木)**
**評議員研修会 … １月26日 (金)**

ブロック研究発表会・全市研究発表会の開始時間につきましては、14 時以降で予定しています。